



第316号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



自分を知ろう

新緑したたる好季節、田園風景の中に鯉のぼりが五月の風をはらんで躍っています。お寺の庭に咲く大輪の牡丹の花も、風にゆられて楽しそうです。皆様、お元気でいらつしやいますか。



カット：本多紘子

4月17日は心光寺の春の法要で、午前中からたくさんさんの催し物があり、愚僧は一週間前から天気予報のことを気にしていました。当日は50%の雨マークが出、前々日の15日には90%となり、晴れ男の愚僧にもついに雨かと落胆しましたが、14日午後9時26分頃に熊本県益城町で震度7の地震があり3人が死亡したとの朝のテレビニュースを見ていたので、大地震に比べたら大雨ぐらい仕方ないと思ひ、熊本県の方々は余震も続き大変だなあと気遣っていました。

16日深夜、うとうととしていると地震を感じましたが、法要の準備で疲れていたのものでそのまま眠り、朝になってテレビを見ると、16日午前1時25分頃熊本市を中心に南阿蘇村などで震度6強の強い大地震が発生、気象庁は一連の地震の「本震」だと発表し、熊本、大分、佐賀、の各県の建物倒壊や損壊、土砂崩れ現場を映したり、南阿蘇村の東海大学農学部（のうがくぶ）の学生らが住むアパートが倒壊した現場の救出現場にカメラを回しており、想像以上の被災現場に胸がふさがる思いでした。

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

17日は幸いに雨が朝8時に上がり良い天気恵まれ、午前中の催し物も順調に進みましたが、午後からの法要儀式が終わっても、仏教講演の講師である福井県演仙寺住職の多田先生が午前中に来られる予定が、到着しないのは慌てました。福井県の敦賀駅あたりで強風が吹き、列車が止まっていたので、携帯電話から何時になるかわからないと言われましたが、少しぐらい遅れても愚僧がお話していればと思つて待つていました。岡山駅まで着いても、瀬戸大橋線が強風で動いておらず茶屋町駅まで来られないので、急遽倉敷駅まで来て頂き、総代さんにお迎えに行つて貰いました。首を長くしてお待ちしていた多田先生が、お寺に着かれたのは閉式時間の午後4時でした。

多田先生はお疲れの様子も見せず、すぐにお寺の本堂で待つている門信徒の方々に50分間『真実明に帰命せよ』という講題でお話くださいました。仏様に救われると言うことは、自分という人間の真実を知らされ、そのままを受け入れられることを救われると言うのですよと語られたのが印象的でした。阿弥陀様のことを真実明と呼びます。仏様の智慧は、人間の迷いの闇を真実の明かりで照らし破つて下さるのです。私たちが呼ぶのです。帰命とは、お任せするとか信じるという意味です。私たちの真実は自分の都合や損得で生き、欲も多く、怒り腹立ち、嫉み、妬む心の多くして臨終の一念まで絶えず消えずの煩惱だらけの一生です。あまり自分を深く見つめないで、自分は正しく生きていると勘違いしますが、自分の思うとおりにならず、悲しいことが続くと、ふつと仏様のお話を聞いて救われたいと思うのですね。

「救われる」というのは自己の真実に目覚めることだとお釈迦様も言われています。どうしようもない自分本位の人間に目覚めると、どうしようもない他人が許せるのです。他人を許せないのは、どうしようもない自分にまだ目覚めてないのです。阿弥陀様の真実明に出逢うと、どうしようもない自分に目覚め、どうしようもない人々とともに苦しみ、悲しみ、喜びながら生きられるのです。合掌（奥原 曇龍）

『苦しみも悲しみも自己の真実に 目覚めるための仏のお慈悲』 どんりゅう



カット：奥原唯

ともしび説法

日時・五月十一日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
六月 八日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高 426 新本堂
電話 086-420-1311



法然上人ものがたり(5)

法然上人は、漁を職業として魚の命を絶ちて生活をしていた高砂の浦の老夫婦の「もの命を殺すものは、地獄に落ちて苦しみ耐え難く待てるなるに、いかがしてこれを免れることができませんようか、助けてほしい」との切実な願いに、「汝が如くなるものも、南無阿弥陀仏と称すれば、仏の悲願に乗じて浄土に往生できる」と教えています。

また、室の遊女には「身命を省みざるほどの道心いまだおこり給わずば、ただそのまゝにて、もはら念仏すべし。阿弥陀如来はさよくなる罪人のためにこそ、弘誓をもたてたまえる事にて侍れ。ふかく本願をたのみて、あえて卑下する事なかれ」と、今までの遊女の仕事をやめてしまいたいといった強い心がおこらなかつたならば、それで結構です。現在の境遇のままで、ただひたすら念仏することです。阿弥陀はそなたのような罪深い人のためにこそ、慈悲深い誓願をお立てになられたのです。深く本願を信じ、決して罪深い身であるからといって、卑下することはありません。本願にすがって念仏すれば、疑いなく往生できるのです、と説いています。

法然上人は、悪人・罪人を被支配者・直接生産者と規定した上で、罪を犯すことはやむを得ない。こうした生産者がいてこそ、食糧の供給があり、社会が成り立っており、社会秩序を保つ上の不可欠の条件として、悪人往生を説かれたのです。合掌 (奥原曇龍)

曇龍先生、四月十七日春の永代経法要では朝から多く催し物があり、お疲れ様でした。子供たちとママさん達のハンドベル演奏、また戸板先生と奥原綾さんのピアノ連弾演奏、今井勉さんの竹の楽器によるパンフルート演奏、親父バンドによるギターとドラム演奏。昼から法要儀式と仏教講演、感動しました。

倉敷市西中新田 古谷 洋子

青葉萌え名も無き草も懸命に 花を咲かせる命のともしび 田辺多恵子



春の永代経法要(住職ならびに法中かた)

ともしび法話

五月はゴールデン・ウィークがあり、皆様がお過ごしのご予定でしょうか。若葉の萌える季節、ハイキングもいいですね。お寺も春の永代経法要が総代さんや世話人さんのお陰で無事に盛大に催すことが出来、感謝しています。門徒の皆様が集いやすいお寺を目指して今後も頑張ります。心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

春の法要では、曇龍住職が門信徒の前で賛仏歌の『み仏にいだかれて』という曲をピアノを弾きながら歌われたのは感動しました。楽譜も読めないのに六十七歳の手習いで、五カ月で独学で弾き、驚きました。倉敷市中島 山田 孝治

熊本地震で多くの家屋が潰れ、まだまだ余震が続いており、夫婦ともに熊本県出身なので、実家のことが心配です。早く地震が終息し安心の生活に戻れるように…。倉敷市早高 箕田れい子

四月十七日の法要での仏教講演は、福井県のお田先生でとても有り難かったです。倉敷市福井 重田 涼子

ともしび説法

日時・五月十一日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
六月 八日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り
(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定
七月 十二日(火)・午後一時から午後四時頃・早高の本堂。
八月 十六日(火)・午前十時から午後十二時半・早高の本堂。
九月 七日(水)・午後一時から午後四時頃・早高の本堂。

☆『ともしび』を平成18-20年、平成21-23年、平成24-26年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となつて、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。



うしろの詩

若葉かがやき 鯉のぼりが泳ぐ
人生に希望を失っている君よ
さあ たちあがろう
迷い 悩み いらだち
苦しみながら
立派な人も歩んだのだ
悲しみが人を育てる



カット:吉岡美枝

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらおうより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうとしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「316号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には、茶屋町駅に12時35分頃、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡下さい。合掌 総代長 三村健